

全国レクリエーション大会のあゆみ

第1回	石川県	昭22.10.27～29	第2回国民体育大会を機に第1回大会を開催「日本レクリエーション協議会」発足、森戸文部大臣らの講演、スポーツやダンスの講習会など多彩に展開。
第2回	福岡県	昭23.10.23～29	前回と同じく、第3回国民体育大会開催地福岡市で、日本レクリエーション協会と称して開催。世界レク会議の日本招へい、機関誌の発行などが提案された。
第3回	東京都	昭24.10.26～29	「会議は日本の総意を必要とし、世はその結論に期待する」を大会モットーに、戦後の経済的、精神的混乱いまだしの立場から、体制の確立と大会の意義を再確認。
第4回	北海道	昭25. 7.24～27	国民体育大会から離れて単独で開催。学会を始め労働・教育・社会各段の代表者、各地の指導者1千余名が参加。全国芸能大会をはじめ多彩な行事が展開された。
第5回	和歌山県	昭26. 8. 2～ 7	6日間の長期にわたって開催。宗教・芸術・経済・道徳・自然科学・保護等とレクをテーマに分科会がもたれた。「若いあこがれ(佐久方毅氏)」を制定。
第6回	熊本県	昭27. 8.20～26	県内260名、県外1,500名以上が参加。レクリエーションの在り方、余暇の善用について研究討議。エリートづくりよりも多数の参加によるスポーツが叫ばれた。
第7回	栃木県	昭28. 8.20～21	大会テーマは「平和とレクリエーション」。時あたかも朝鮮戦争の休戦が調印された。三笠宮総裁「レクリエーションの種目と歴史的展望」と題して御講演。
第8回	宮城県	昭29. 8.11～14	「歴史小説について(中山義秀氏)」などの研究発表。芸能大会ははなやかに開催。研究テーマとして「農山村のレクリエーション」。レクリエーションの生活化を協調。
第9回	宮崎県	昭30.11.12～15	分科会「婦人のレクリエーション運動について」ほか。勤労青少年に対する野外活動振興に大きな示唆を与え、また「ひえつき節」の全国的普及に力を尽くした。
第10回	大阪府	昭31.11. 6～ 9	勤労青少年に「中小企業における」レクリエーション振興、および家庭婦人のレクリエーションを主要テーマに討議。国際レクリエーション協会の理事国となり、国際色がうち出された。
第11回	広島県	昭32. 8.20～23	研究テーマは「社会的緊張とレクリエーション」。神武・高天原につづいてなべ底景気の年。広島県レクリエーション協会設立後8年の地道な運動の成果が大会に反映。
第12回	愛知県	昭33. 8. 3～ 6	「レクリエーションが人間形成にいかなる貢献をするか」が統一研究課題。シンポジウム・講演・分科会を軸にレクリエーションの本質と意義の解明がなされた。
第13回	神奈川県	昭34. 8. 3～ 6	「レクリエーション振興のための組織の強化」をテーマに、各分野ごとに展開されている活動の、一層の進展と組織強化を討議。第1回のアジアレクリエーション大会を同時開催。
第14回	北海道	昭35. 8. 3～ 6	大会テーマは「生産活動とレクリエーション」。講演式討論会が取り入れられ、「与えられたレクリエーションからの脱皮」をめざして、職場・地域社会等のレクリエーションを再検討。
第15回	新潟県	昭36. 8.18～21	「婦人とレクリエーション」をはじめ4つの分科会、当時、激増の傾向にあった観光旅行の望ましいあり方をめぐって、「観光とレクリエーション」が研究課題としてとりあげられる。
第16回	鳥取県	昭37. 7. 1～ 4	「純農山漁村部会」・「都会部会」・「企業部会」の研究協議会をはじめ、高原を会場に15の分科会。参加者は全国各地から1,500名にのぼった。
第17回	福井県	昭38. 8. 1～ 4	「現代社会におけるレジャーの意義(松下正寿氏)」の特別講演。初の試みである「レクリエーション教室」が好評。交歓の夕べには地元関係者5千人が参加。
第18回	兵庫県	昭39. 9.30～10.1	オリンピックムードの中、開催。大会終了の翌日、第1回世界レクリエーション大会関西地区で開幕。「生活の科学化とレクリエーション(氏家寿子氏)」の講演。六甲山登山。
第19回	山形県	昭40.10.14～17	「明日の生活とレクリエーション(平沢和重氏)」の講演をはじめ、13の分科会、5部門のシンポジウム・13のレクリエーション教室。研究内容がより細分化・専門化され、多岐にわたる。
第20回	長崎県	昭41.11.18～20	「次の20年の躍進をめざして」開催。選定歌「明るい日には」発表。大河内一男氏の「余暇」と題した講演をはじめ、研究協議、実技教室など多彩。
第21回	滋賀県	昭42. 3.18～20	自然破壊のアンチテーゼとして「自然とレクリエーション」を中心課題にかかげた。「野外レクリエーションの将来」と題したシンポジウムをはじめ、分科会、実技教室など多彩。
第22回	千葉県	昭43.10.26～28	「体力づくり」を再確認しようと、医学・体育・行政面からも迫った。安西愛子氏の「暮らしにリズム」の特別講演は好評。アジア・レクリエーション会議も同時開催された。
第23回	岡山県	昭44.11.15～17	「変貌する社会とレクリエーション」をテーマにシンポジウム、各研究協議会が活発に行われた。木崎国嘉氏が「スポーツはいかにあるべきか」の講演。
第24回	山梨県	昭45. 8.23～25	「人間にとってレジャーとはなにか」のシンポジウム。坂上次郎・上坂冬子・石田弘義・弦巻敏夫の4氏。池田弥三郎氏の「あそびの倫理」と題した講演など。
第25回	北九州市	昭46.11. 5～ 7	「生活環境レクリエーション」と題したシンポジウム(石垣純二氏ら55名)講演「レクリエーションの未来―人間性とレジャー(小松左京氏)ほか14研究協議会に成果。
第26回	東京都	昭47.11.11～13	テーマ「レクリエーションで結ぶ国民の広場―より高い福祉団体社会の建設をめざして」。レクリエーション関係団体の協調が特色。
第27回	茨城県	昭48.11.25～27	「豊かな生活をつくるコミュニティ・レクリエーション―なかまと健康といきがいとー」人間にとって真の豊かさとは・・・をさぐった。

全国レクリエーション大会のあゆみ

第28回	佐賀県	昭49.11.1～3	「個性あるレクリエーションの創造を求めて―指導者・仲間・場所づくり―」の大会テーマのもとに研究協議・シンポジウム・実践活動の展開。あらためてレクリエーションの意義について問い直した。
第29回	徳島県	昭50.11.21～23	「レクリエーションを今いちど原点で」をテーマとして、素朴な手づくりのよさを再確認し、形式に陥ることなく、明るく豊かな生活を追求した。
第30回	秋田県	昭51.10.2～4	「ふるさとに たしかな あすを」ふるさとにはぐくまれた伝統的なレクリエーションを見直し、豊かな健康生活の復元と余暇時間の創造を図ろうとするものである。
第31回	富山県	昭52.9.9～11	「コミュニティに連帯と生きがい」をテーマとして、コミュニティづくりに貢献できるレクリエーションのありかたを探る。研究協議、実践発表、県内実践活動を中心にしたのが特徴。
第32回	神奈川県	昭53.10.6～8	「コミュニティに新しいふるさとを」をテーマに地域に根ざした、スポーツ・レクリエーション活動の日常化をはかる。大会テーマについて長州一二氏が講演、国際色豊かなシンポジウム、実践活動が特徴。
第33回	山口県	昭54.11.7～9	「ふるさとにスポーツの輪を」をテーマとしてスポーツ・レクリエーションを地域社会にどのように定着させるのかを研究した。また野外活動関係種目等の全国講習会、大会を大幅に取り入れた大会であった。
第34回	石川県	昭55.8.1～3	「太陽と緑・さわやかな汗とふれあい」をテーマに、地域に根ざした文化芸能も加えて、これからの生きがいと豊かさをめざした幅広いレクリエーション活動の実践の方法を研究した。
第35回	埼玉県	昭56.11.7～9	「健やかな心とからだで住みよいまちを」をテーマにレクリエーション活動の日常化を図り、心とからだの健康をとりもどし、人間関係を深め、明るく豊かなまちづくりを推進するための理論と実践方法を研究し、今後の運動の方向を確認した。
第36回	大分県	昭57.10.30～11.1	「ふるさとづくりを健康の輪で」を大会テーマに心身の健康活動を推進しようと、4市で実践活動と13種目の活動を実践し、レクリエーション活動の浸透と振興に努めた結果、レクリエーション実践の気運が県内に盛り上がった。
第37回	大阪府	昭58.10.29～31	「21世紀をひらくレクリエーション―健康とふれあいの輪をひろげよう―」21世紀に向け、人間の幸せを求めてレクリエーション運動を一層推進するための方策を考える。築城400年祭の記念すべき年に大阪ならではの大会を実施した。
第38回	鹿児島県	昭59.11.3～5	「燃える太陽、豊かな海にふれあいひろげてぬくもりを」を大会テーマに「レクリエーションの意義や重要性を認識し、その普及と活動を通してレクリエーションの日常化を図り、心身ともに健やかでやすらぎあるくらしをめざして、ぬくもりに満ちたふるさとづくりを推進する基調としたい」をめざしている。
第39回	三重県	昭60.10.26～28	「こころのふるさと、豊かな自然レクリエーションでひらこう、みんなのいきがい」をテーマに急速に進む高齢化社会に向かって、ひとりひとりの生きがいとは何か、あたたかい人間関係づくりを基調とした生涯教育としてのレクリエーション運動の方策を模索した。
第40回	沖縄県	昭61.10.24～26	「国際化時代におけるレクリエーションの果たす役割」をテーマに40回の記念大会として視野を日本に限らず世界に広げ、国際的見地からレクリエーションの課題を考える。グレゴリー・クラーク氏の「レクリエーション・平和・日本の未来」の特別講演。沖縄ならではのエメラルドグリーンの海を十分に活用した海洋レクリエーションを取り入れた。大会を記念して「ふれあい音頭」を県レクリエーション協会で制作し発表した。
第41回	山形県	昭62.10.16～18	「V I V Aふるさと―レッツエンジョイレクリエーション」をテーマに、全国二巡回の最初の大会として新しい企画で開催した。これまでの研究協議にかえて、優良団体事例発表、雪国のレクリエーション紹介、レクリエーションスポーツ紹介を取り入れるとともに、日本レクリエーション協会創立40周年を記念し記念歌の発表を行なった。また、昼食時は、山形名物「いも煮」を食べ、食文化に触れながら交流を深めた。
第42回	北海道	昭63.8.20～22	「未来へつなぐ北のつどい、ふれあいの輪」を大会テーマに第1回スポーツ・レクリエーション祭を兼ねて開催された。「生涯スポーツを考える」をテーマに開かれたシンポジウムでは、将来あるべきスポーツ・レクリエーション運動について、会場内からも活発な意見がのべられた。
第1回 (第43回)	福岡県	平成.8.25～27	「ふるさと創生と生涯スポーツ・レクリエーション」をテーマに第1回全国レクリエーション研究大会として開催された。これまでのレクリエーション大会と違い、研究大会の名のごとく、各領域、種目での研究協議が熱心に繰りひろげられた。
第2回 (第44回)	京都府	平成2.9.22～24	「きょうから21世紀にはばたく生涯スポーツ・レクリエーション」をテーマに第2回全国レクリエーション研究大会京都大会が開催された。本大会は、財団法人日本レクリエーション協会総裁三笠宮崇仁親王殿下が三笠宮寛仁親王殿下と交代される記念すべき大会であった。
第3回 (第45回)	新潟県	平成3.8.22～24	「ふるさとにあたらしいぶきと いきがいを・・・」をテーマに21世紀を展望した“ふるさと”づくりをめざして開催。本大会からシンボルマークが制定され、水の都新潟の特徴をいかした種目を多く取り入れた大会であった。
第4回 (第46回)	仙台市	平成4.9.25～27	「さんさん いきいき ときめくであい」をテーマに、余暇生活の充実とゆとりと生きがいのある生活の実現をめざして開催された。今回より新たに余暇生活開発部会が発足し、指導者の育成も含めた、これからの社会を見通した活発な活動が繰り広げられた。
第47回	東京都	平成5.9.24～26	大会名を「全国レクリエーション大会」にもどして「生きがい健康づくりと活力のある地域社会の創生」をテーマに、東京都多摩地区17市で開催され、全国から15,000名が参加した。大会は7研究協議部会と25の種目に分かれ活発な活動が展開されたが、多摩地区で開発された多様なニュースポーツ種目と、ドッジボール、伝承ゲームが加わり、子どもから高齢者まで幅広い参加者があった。

全国レクリエーション大会のあゆみ

第48回	島根県	平 6. 9.23～25	「悠悠と遊遊と学ぶ神の里」をテーマに、神々の集う秋の出雲路で展開された大会は、「ふれあいハゼ釣り大会」などの協賛行事を含め、約8,000人が参加した市民参加型大会。実践活動10種目のほか、領域部会は、生涯スポーツ研究部会などの6部会。特別プログラムとして、「21世紀のレクリエーションの展望を語り合う」や協賛プロなど、新しいレクリエーション大会のあり方の試みが随所に見られた大会であった。
第49回	熊本県	平 7.11.10～12	「余暇時代における豊かなライフスタイルを求めて」をテーマとして、余暇時間の増大により生涯スポーツ・レクリエーション活動に対する期待の高まる中で指導者として、愛好者としてどのように支援していくかを研究協議及び実践活動を通して行なった。なお、開・閉会式を中日の総合式典として内容充実を図るとともにユニークな協賛種目バスエクスカーション等大会全般にわたり「火の国」熊本の躍動感あふれる大会を県内外約7,500人の参加者と共に楽し過した。
第50回	愛知県	平 8. 9.13～15	「21世紀の生涯スポーツ・レクリエーション」をテーマに県内外から12,000人が参加し、半世紀を総括する記念すべき「第50回全国レクリエーション大会IN愛知」を開催した。とりわけ、特別プログラムとして総裁三笠宮寛仁親王殿下の基調提案をもとに「レクリエーション・サミット」が開催され、活発な討議の結果「サミット共同宣言」として閉会式に高らかに発表され、レクリエーション運動の再構築をめざすことを確認する大会となった。また、大会テーマソング「明日へ」が制定され、47都道府県協会旗が開会式で入場。
第51回	北九州市	平 9.11. 1～ 3	新たな半世紀の第一歩である第51回大会は、大会テーマを『「共に生きる」社会、「共に遊ぶ」文化』とし、レクリエーション運動の原点でもある手作りの企画運営と市民参加を目指した。また、新たな試みとして、フォーラム部門では「ネイチャーレクリエーション」を、種目別交流部門では「パドルテニス」「ユニカール」「フィンスイミング」を実施。大会当日は天候にも恵まれ、全国から16,000名の参加者でにぎわった。
第52回	愛媛県	平10. 9. 4～ 6	リニューアル2年目の第52回大会として「感動」と「生きがい」市民参加のレクリエーションをテーマに、松山市を中心に2市4町で開催。高齢化社会を踏まえ、「福祉」を大会コンセプトに研究フォーラム4部門・種目別全国交流大会15部門・特別行事6部門、一般市民参加の「ふれあいキイキ健康フェスタ」に全国から20,000人が参加、民間主導型の愛媛らしさを演出したホットな大会となった。
第53回	奈良県	平11. 9. 3～ 5	「咲かせよう！21世紀へ 大和のくからレクの花」をスローガンに「市民と共に創り、楽しむレクリエーション」のテーマのもと、種目別全国交流大会17種目、リニューアルされた35セッションに及ぶ研究フォーラム、特別事業等に延べ25,000人余の参加者を得て、初秋の大和路をレクの花でいっぱいにした。
第54回	群馬県	平12.10.27～29	20世紀最後の開催となった第54回大会は、大会テーマを「21世紀へかける生きがい みんなのレクリエーション」として、「さわやかな 風と 光と 友情と」のスローガンのもと、手づくりによる企画運営と開催日が群馬県民の日とも重なり、県民参加によるレクリエーションの交流を目指した。開会式には交流種目の実演紹介を取り入れ、種目別全国交流大会ではフォークダンス5種目の実施による18種目、29セッションの研究フォーラム、5種目の特別協賛行事の他、群馬交響楽団の歓迎コンサート、イベント等開催。36,000名の全国の参加者と交流を図った。
第55回	香川県	平13.10.26～28	新しい世紀に輝く希望の第一歩となる55回全国大会は、瀬戸の都、高松市を主会場として開催。「2001 レクで拓く 新世紀」の大会テーマのもと、「空海に学ぼう 心のふるさと さぬきの国から」をスローガンに、全国から4万余名を越える参加者があった。29におよぶセッション（13の公開セッションを含む）があった研究フォーラム、18の種目別全国交流大会、サンポート高松を中心に実施された「サンポート レクフェスティバル 2001」の特別行事、県民スポーツ・レクリエーション祭や高松トリム祭の祭典、森の文化祭の特別協賛行事等と多彩な内容で展開された。
第56回	埼玉県	平14.11. 8～10	大会テーマとスローガンを一体化して「レクの花 見事咲かそう 彩（あざ）やかな 未来へ」というスローガンのもと、県南5市20の会場で手作りによる企画・運営を行った。送迎バスに頼らず公共交通機関を利用して参加できる会場を設定した事、東洋一を誇る「さいたまスーパーアリーナ」に5,800名近くの参加者を迎えて総合開会式が行われた事、同会場で行われた種目別日本民謡全国交流大会には5,500余名の参加者があったことは特筆すべきことである。3日間の参加者は53,234名であった。
第57回	広島県	平 15. 9.19～21	「レクリエーション拡命～あなたから ひろしまから～」を大会テーマに、レクに集う仲間による手作りの大会であったが、全国から3万人の参加者で盛り上がった。大会は“私が変われば社会も変わる”をモットーに、自分が変わる「拡命」を目指し、14の種目別全国交流大会と25のセッションによる研究フォーラム、だれもが楽しめる特別事業関係を実施し、今回のテーマである「拡命」が意味するものを広島から全国に発信した。
第58回	鳥取県	平16. 9.18～20	「鳥取に きんさい みんない あそびんさい」の大会スローガンのもと、ボランティアスタッフを公募で募るなど手作りの大会を目指した。鳥取県発祥のニュースポーツ「グラウンド・ゴルフ」を初めて種目別交流部門に加えたり、早朝や夜に開催する研究フォーラムセッションなど、新たな試みを実施。種目別全国交流大会12種目、研究フォーラム32セッション、5つの特別行事等、多彩なプログラムを実施し、全国各地から3万人の参加者で賑わった。
第59回	東京都	平17. 9.17～19	東京での開催が4回目となる第59回全国大会を「Enjoy Discovery in Tokyo」のテーマを掲げて開催し、東京体育館メインアリーナにおける総合開会式をはじめ、東京都庁45階の「展望室」における都心の夜景をごちそうとした新しい形の「交歓の夕べ」などを試みた。また、21種目の種目別全国交流大会や23の研究フォーラムを中心に、誰もが気軽に参加し、楽しんでいただけるプログラムを展開し、38,000余人にのぼる多くの方々に交流と友情を深めていただき、思い出多い大会となった。

全国レクリエーション大会のあゆみ

第60回	青森県	平18.9.16～18	楽しもう 広げよう！ 青い森から レクの「WA」を！のスローガンに、第60回全国レクリエーション大会はあおもりで開催された。青森県レクリエーション協会会員の手づくりによる大会は、ば・る・る プラザ青森での総合開会式に始まり、13種目の種目別全国交流大会、17セッションの研究フォーラム、6公募セッションと特別行事、特別協賛行事が、青森市を主会場に3日間に渡り県内外から2万余名の参加者を迎え開催できた。大会企画・運営等には、会員は勿論一般ボランティアや多くの課程認定校学生の協力を得ることが出来た。また、総合開会式アトラクション出演者（団体）や特別行事出演者（団体）にあっても、大会を大いに盛り上げていただいた。本大会の開催は、県民にレクリエーションを広げ・伝え・理解していただく最良の場であった。
第61回	神奈川県	平19.11.2～4	神奈川での開催が3回目となる第61回全国大会を「レクの風 カモメがはこぶ全国へ」をスローガンに、港と夜景が美しい国際都市“横浜”の神奈川県民ホールにおける総合開会式をはじめ、世界最大級のチャイナタウン“横浜中華街”での「交歓のタベ」など全国の仲間との交流と感動を図った。また、21種目の種目別全国交流大会や28の研究フォーラムを中心に、ウォークラリーやニュースポーツ体験の特別協賛行事など横浜、川崎、鎌倉、藤沢の4市を会場に多彩なプログラムを展開し、全国各地から2万余人にのぼる参加者と交流・友情を深めた。
第62回	岩手県	平20.9.13～15	岩手では初めての「第62回全国レクリエーション大会」を「きらめいて 銀河の国から レクの夢」をスローガンに開催された。盛岡駅直結の盛岡市民文化ホールマリオスにて開会式。平泉毛越寺の国の重要無形民俗文化財「延年の舞」で厳かに幕開け。「交歓のタベ」では「わんこそば」を第44代横綱が同席して熱戦を繰り広げ、「さんさおどり」では参加者も一緒に踊り大いに盛り上がった。23セッションの研究フォーラムはいわて県民情報交流センターアイーナにて、12団体14種目の種目別全国交流大会は盛岡市から花巻市までの体育施設で展開。会員ボランティアや、明るく元気な課程認定校生の「おもてなしの心」が1万人を超える参加者の思い出となり、県民にレクリエーションを理解していただいた意義深い大会であった。
第63回	長崎県	平21.9.19～21	「レクの鐘 鳴らそう ながさき いい出会い」を大会スローガンに43年ぶり2回目の開催。長崎県ならではの財（観光地等）を生かし、県内各地での交流会場を設置した。34セッションの研究フォーラム、17種目13会場の種目別全国交流大会、4種目6会場の特別協賛行事、7種目6会場の特別行事等に県内外から19,000人余の参加があり楽しい「いい出会い」の交流が図られた。今大会では、史上初の試みが展開された。①屋外での「交歓のタベ」を観光スポットのグラバー園で開催。②大会速報に発行一前日のイベントを号外形式で参加者に情報提供一。③大会3日間のふりかえりと題して閉会式のプログラムに取り入れ、スライド形式で大会内容を紹介するなど、新しい試みが見られた。
第64回	静岡県	平22.11.6～8	静岡県初となった第64回大会は、県内11市に亘る広域で開催し、会場となった各市に積極的なご協力をいただいた。本大会はユニバーサルデザインを取り入れた大会を目指し、研究フォーラム30セッション、種目別全国交流大会19種目、特別行事9行事、特別協賛行事9種目を実施した。富士山の世界文化遺産登録を目指すセミナーや“発見！！家康公ゆかりの地を歩いてみよう”など、静岡県の歴史・風土を盛り込んだ内容となった。大会スローガンは「ふじのくに ひと・ゆめ・レクのシンフォニー」とした。メイン会場となった「グランシップ」で行われた開会式では、富士山を表した大きな舞台装飾が見守るなか、都道府県レク協会旗が堂々の入場行進を行い、全国47都道府県の旗がステージに集結した。開会式・閉会式とも好評のうちに終了し、参加者は延べ3万余名となった。
第65回	滋賀県	平23.9.23～25	「あふれ出る レクのいぶきを びわ湖から」を大会スローガンに、第21回大会以来44年ぶりの開催となった。今大会は、式典や研究フォーラムなど随所に滋賀らしさを出すとともに、県レク加盟団体や指導者、龍谷大学の学生グループ「レク龍」の協力も得て、すべて手作りの大会運営を行った。天候にも恵まれ、25のセッションと協賛行事からなる研究フォーラム、14種目の種目別全国交流大会、特別行事2行事、特別協賛行事4種目を実施し、全国から1万人を超える参加者との交流ができて友情を深めることが出来た。また、本大会を「東日本大震災復興支援事業」と位置づけ、被災された方々の復興を支援するとともに、参加費の一部を「東日本大震災レクボランティア支援募金」として、現地で活動するレクボランティアのための募金とした。
第66回	福井県	平24.9.21～23	49年ぶりの福井での2回目の大会。「いっちゃらい 福井（291）でつむぐ レクごころ」のスローガンのもと、福井らしさを出そうと福井弁や福井の文化、工芸、名所、そして食を大会プログラムの随所に取り入れ、「福井のいっちゃらい」をアピールし、また、参加者には、どのような生活も前向きに捉える独楽吟の歌人・橘曙覧のように大会を楽しんでもらおうと、スタッフ一同、一丸となって取り組んだ。県内外から延べ15,000人の参加者を得て、研究フォーラム34セッション、種目別全国交流大会12種目、特別行事18・特別協賛行事6・協賛行事8の行事を実施したが、特に交歓のタベをお弁当つきとして屋台で使えるチケット制にしたこと、閉会行事を半日の内容にして一般参加者を呼び込んだこと、特別行事を多くして加盟団体とともに行ったこと、セッションの中にコーディネーターの受講生の企画（プログラム）を4つ取り入れたこと等、いろいろ工夫を凝らしたのが特徴であった。それぞれの持っている力は小さいけれど、スタッフ・学生・参加者のエネルギーを「福井でつむぐ」全国レク大会となった。
第67回	福岡県	平25.10.25～27	「～楽（あそ）び・歓喜（よろこ）び・咲（わら）う～魅せませす！スポーツ・レクリエーション可能性と未来」をスローガンに掲げ開催。全都道府県と中国・韓国から1万2千人を超える参加があり研究フォーラム55セッション、種目別全国交流大会及び特別協賛行事23種目、特別行事・協賛20行事を開催。延べ3万3千人を超える大規模大会となった。大会は107歳昇地三郎先生の特別講演で始まり、基調提案「レクリエーションの可能性と未来～レクリエーションのマスターキーとは～」や福岡大学付属若葉高等学校ダンス部のスペシャルアトラクションに「さすが福岡！」の声を聞くことができた。フィナーレは、参加者全員で東日本大震災復興支援曲「花は咲く」を踊り、第68回福島大会の成功を祈り福岡大会の幕を閉じた。

全国レクリエーション大会のあゆみ

第68回	福島県	平26.9.19～21	「福島に 集い咲かそう 笑顔の輪」。福島県で初めて開催した大会は、東日本大震災と原子力発電所の事故からの復興と、それに伴う風評被害の払拭を目指した大会となった。 福島市音楽堂での音楽にあふれた開会式に始まった大会は、晴天のもと、福島駅前通り特設ステージにおける屋外閉会式で幕を閉じた。研究フォーラム45セッション、種目別全国交流大会18種目、特別協賛行事17種目、そして20事業にわたる協賛行事等、100を超える事業が県内各地で繰り広げられ、延参加者数は、4万人に手が届くほどであった。 初めて福島県で開催した全国大会をスタッフとして経験した若い有資格者が、今後のレクリエーション運動の大きな担い手となっていくことが期待される意義のある大会であった。
第69回	長野県	平27.9.19～21	第69回大会は、「日本の屋根 つらなる山脈（やまなみ）つながる友情 あふれる笑顔！今ここで」を大会スローガンに県下14市町村を会場に開催した。 長野県は平均寿命男女とも日本一の長寿県であり「健康」をキーワードとしたセッションも多数用意した。 平成27年は7年に一度開催される「諏訪大社御柱祭」の前年ということもあり、御柱を曳く氏子の力を結集させる木遣の「ヨイサ！ヨイサ！ヨイサ！」の掛け声が開会式場に響き渡り、迫力ある映像と共に会場が一体感で満ちあふれ、心に残る大会であった。 また、学生ボランティアの爽やかな笑顔やホスピタリティーあふれるサポーター・ボランティアにより“おもてなし”にあふれた大会でもあった。
第70回	岐阜県	平28.9.23～25	岐阜県初開催となった本大会では、「清流に 楽しさ 笑顔 夢いっぱい」の大会スローガンのもと、大会史上初県内42の全市町村を会場とし、過去最大規模の38の種目大会と40セッションの研究フォーラムを実施した。また、会期前にはミナレクキャラバン隊が全市町村を訪問したり、プレイベントを行ったりと、レクリエーションの楽しさを伝えるための多彩なプログラムを展開した。その結果、大会期間中と会期前の参加者数は17万人を超え、過去最大の参加人数となり、第70回という節目にふさわしい記念すべき大会となった。
第71回	北海道	平29.9.15～17	「北の大地 ふくらむ ひろがる レクの輪」を大会スローガンに、第42回大会以来、函館では29年ぶりの開催となった。北海道新幹線開通を記念して、函館市役所からの大会開催の要請を受けたことが出発点となったが、併せて、近隣の北斗市、七飯町、森町、道央の恵庭市を含め5市町を会場に行った。スローガンの通り、子どもから高齢者までレクの輪が広がることを願い、開会式のアトラクションでは、幼稚園の年長、高校生、大学生、成人、高齢者と登場し、様々なパフォーマンスを繰り広げ、手づくりのおもてなしにぬくもりと感動を覚える開会式となった。9種目の全国交流大会、36のセッションからなる研究フォーラム、4種目の特別協賛行事等を実施し、全国から1万人を超える参加者を迎え、スポーツや実践発表等で交流を深めることができた。



大会告知ちらし（岐阜大会で配布）



スタッフユニフォーム（ポロタイプ）



大会告知ちらし



大会告知ポスター



開催募集要項

総合プログラム



スタッフユニフォーム（Tタイプ）

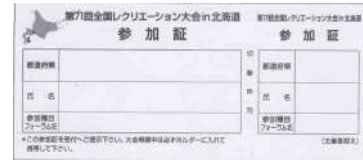
－ 製作物 2 －



大会記念品



大会専用封筒

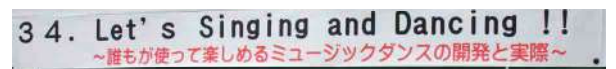
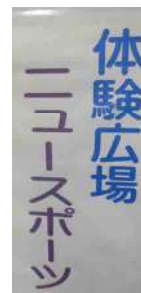


チケット類 (実際は着色)



大会ネームケース

横断幕・看板類 (抜粋)



都道府県レク協会旗の掲示に一工夫



[illegible]

全国のトリッシュランド大会—最優秀者の参加が可能なイベント				
イベント名	開催日	時間	会場/最優秀者参加	内容
宮城ウォーク・ラン大会	9月5日	午前9時~正午	アコースティック・サウナ (宮城県美術館)	宮城県近郊区の観光客をよむよむよむのチーム
宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会	10月10日	10時~正午	宮城大学 (宮城県仙台市)	アイヌ文化・研究・体験 活動の紹介やアイヌ文化 の文化を学ぶ
宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会	10月10日	午後1時~午後2時30分	宮城大学 (宮城県仙台市)	宮城自然環境の体験学習 活動の紹介や宮城自然 環境の文化を学ぶ
宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会	10月10日	2時30分~4分	あづま公園 (仙台市青葉区)	七瀬川の水質調査や環境 保護の活動や環境を学ぶ
宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会 —宮城ウォーク・ラン大会	10月10日	午後9時~午後10時	宮城大学 (宮城県仙台市)	—宮城自然環境の体験学習 活動の紹介や宮城自然 環境の文化を学ぶ

アマチュア落語家22組出演

あすから
イブサン

園遊会(平町) 17日まで 園遊で活動
する落語家や学生ら東区奉助さんを慕い、
応援する「マチユメ」が1988年から毎
年この時期に梅子の成果を披露している
今年も同地区から延べ約40組が出場。16日
は午後4時〜同6時、夢動さんの落語披露
は初めて行い、土俗落語「元の落語」を演
じる。17日は午前10時〜午後4時、年長は
道内初・陸上を走る川内全国リクリエー
ション大会イン北海道の協賛行事として開
く。入場料は、1・2歳共通の通し券で、
前売500円、当日1000円。同、同
や券券で抜く間い合せは角甲子(ハコ
100・31・202)。



昨年の落語大学の様子



15日は函館市民会館で約900人が参加し、開会式によるファンファアレの後、高校マーチングバンド部によるファンファアレの後、会長が開会宣言。スポーツ庁の今里譲次長に続き、日大実行委員会の蔵満保幸本レクリエーション協会の

函館で29年ぶりの開催となる「第71回全国レクリエーション大会」は北海道（日本レクリエーション協会が主催）が15日開幕した。「北の大地 ふくむひろがる レクの輪」をスローガンに、17日までの3日間、全国から集った参加者がレク活動体験や研究発表を通じて交流を深める。

（稲船優香）

「元祖婆あよささい」の元
 氣なヨサコイ、国の華幼稚

園児による合唱や体操披露、江差道分岐で全国からの参加者を喜ばせた。大会の会場は函館や北斗、七飯、森、恵庭の5市町。16・17日は最新のレクに関する研究フォーラムや種目別全国交流大会など多彩なプログラムが行われる。

シヨ大会、北海道「白」協会の水落橋博覧会(73)本レクリエシヨ協会など主催、は「名所を巡るから健康」という主旨で、函館や森田町で研究フオーラムと種別交流大会などのプログラムが始まれば、と白を細めた。

郎さん(64)は、出発を前に「函館の名所を回れると、楽しみにしてきた。久しぶりのウオークラリーなので旗張って歩きたい」と話していた。

(稲船優香)

笑顔でスタートするウォークラリー
大会の参加者

笑顔でスタートするウォークラリー
大会の参加者

87

第71回全国レクリエーション大会 in 北海道が15～17日、函館市を中心に道内5市町で開かれた。「北の大地 ふくらむ ひろがる レクの輪」をスローガンに、研究フォーラムや種目別

全国交流大会、特別行事などを展開。29年ぶりの函館開催で、全国から集まった参加者が親睦を深めた3日間を写真で紹介する。

(稲船優香、鈴木 潤)

函館でレクの輪広がる



600人がダンス

レクリエーションダンスには約600人が参加。講習会では「ずっと好きだった」「スーダラ節」で大盛り上がり(16日)

気軽に運動

テニスコートの3分の1で楽しめるパドルテニス。体への負担が少なく普及が進んでいる(16日)



ムックリ作り

北海道ならではのワークショップも。アイヌ民族の楽器「ムックリ」作りに笑顔を見せる参加者(16日)



29年ぶり全国大会

盛り上げ

開会式のアトラクションに登場した「元祖婆あよさこい」。つえをついた「婆あ、たちが元気に躍動し笑いを誘った(15日)」

9月19日
函館新聞

車椅子レクダンス

ふれあいフェス
第20回全国大会

招へず。音楽に乗せて「イタッ
チやじんばん」なし。内側の
500人が同時に手を合
わし、心と心を通はした。

曲目は「ブルー」をはじめ
社交ダンス、ロリータイプ
ル・ヴァー、エレクダンス
ス、ジャズ・ボカルのフ
ォークダンスの3種類。その

市民クラブと民謡協会が
初めて開催地になった道志
初めの平橋修作部長は、を
くの結んで大盛況になつ
た。市民クラブは、市民

マシ、小牧政隆参事局
チ。駒宮文子、山崎

手が変わる。参加が動機に
なりました。踊り手は

曲目は「ブルー」をはじめ
社交ダンス、ロリータイプ
ル・ヴァー、エレクダンス
ス、ジャズ・ボカルのフ
ォークダンスの3種類。その

「松山勝子さん（79）は「行く先々で元気をあけて、こちらにも元気をもらえる活動。細く長く続けたい」と希望していた。

9月18日
千歲民報

目標めがけ真剣投球 森でペタンク大会

れ、道内外から集まった愛好家が熱戦を繰り広げた。

【日本レクリエーション協会などの主催。森や札幌、北見をはじめ、長崎、富山などから37チーム、111人が参加した。ペタンクは重さ約700gの鉄球をピュットと呼ばれる木製の目標めがてて投げ、距離の近さを競う競技。3人1組で予選リーグと決勝トーナメントで戦った。参加者は集中して目標を狙い、絶妙な投球で相手の球をはじき飛ばしたり、目標近くに寄せ

たりすると、「ナイス」
どと歓声が上がった。
会場では森産のゆでこ
モロコシやかぼちゃ団子
りの茅部汁が無料で振る
われ、選手たちは舌鼓を
ちながら交流を深めて
た。
(鈴木陽子)

9月21日
北海道新聞

頭脳駆使し勝利に導く 森

■ペタンク

た。道内をはじめ長崎県、富山県などから引越して、11人々がエントリ。青の空の下、鉄球のぶつかり合う軽快な音が響いた。ペタンクはフランスで生

属の田川昭信さん(65)は五輪種目追加に向けて「ペタンクはいっても、どこまでいってもできるんだ」ということを広く知ってもらいたい」と話していた。

ベタンクを通じて交流を深めた参加者

味方の鉄球を近づけたのは勝
つ。鉄球でピュッとを弾く
こともでき、最後の一球で
逆転する可能性もあるなど
頭脳戦を楽しむ。参加者
の最高齢は92歳で、初心者
から世界大会出場経験者な
どさまざまな人が出場し
た。

町内では1年半前からレ
ク大会に向けて準備を進め
てきた。道南唯一の町ベタ
ンク協会や町体育協会など
でつくる実行委を中心に、
参加者の活動を厚くサポー
ト。また、受け入れの充実
として、会場ではいかにし

9月20日 函館新聞

全国大会 触れ合い楽しむ

チー・ムワ

ユニカール

○七飯町の大山コナ

では17日、氷上で行われ

プレーできる「ユニカ」

を盟條。東北に關東國
中心に60チーム、約20

人が参加した。

ニニチマルに重なるのがある。

清らせ、専用のカーペ

「ユーパーサ

「ウェーデンで奇案さね」

。 シンプルなルールな

戦局が勝敗を左右する。

グ、決勝トーナメント形

で試合が行われた。1

1000000

選手同士で励まし合いながら熱戦を繰り広げたユニカール

第71回全国レクリエーション大会 in 北海道 報告書

発行日 平成30年2月15日

発行 第71回全国レクリエーション大会 in 北海道実行委員会

〒003-0022 北海道札幌市白石区南郷通2丁目南10-10

リヲオクムヲ502号

印刷 株式会社サンケイプリント社



スポーツくらぶ



第71回全国レクリエーション大会 in北海道 実行委員会事務局

〒003-0022 北海道札幌市白石区南郷通2丁目南10-10リラオクムラ502号

北海道レクリエーション協会 事務局内

TEL/FAX : 011-866-0979 E-mail : hokkaidorecreation@gaea.ocn.ne.jp

ホームページ : <http://www.do-rec.sakura.ne.jp/>